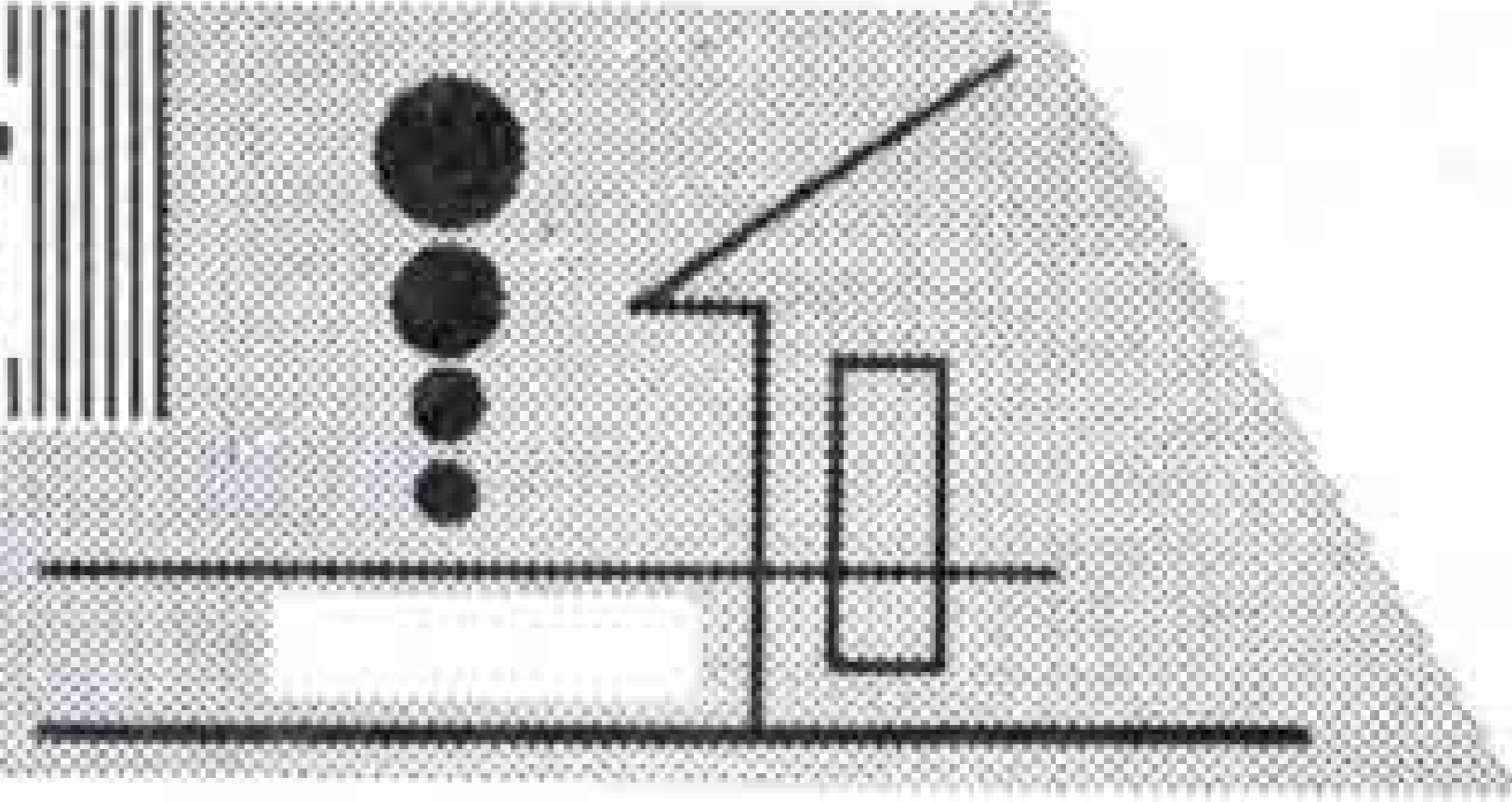


市政モニター提言



主要道路にもつと 横断歩道橋を

問

市内の主要道路にもつと陸橋や地下道を多く設置してほしいと思います。一例をあげ

れば、身延線の柚木駅付近があります。開駅した当時、乗客が国道を横断するために警察に依頼して横断歩道を設置してもらいました。

しかし、停止線で止つてくれる車はほとんどなく、役目をはたしていません。このため事故者もかなり多く出ています。陸橋を設置すれば乗降客や通学児童の安全が守られると思います。 (山崎栄一)

答

交通安全に日ごろからご協力をいただき

ありがとうございます。主要道路への横断歩道橋の設置には相当に広い用地が必要です。道

路敷を使用すると道路が狭くなり、現在の交通状況では危険です。

このため、私有地を購入するか、借用しなければなりません。ところが、この土地の購入がなかなか思うようにできません。いままでも予算をつけて設置するように計画しても、土地がなくてできなかったという例が多くあります。

ご指適の場所についても、地主、地元のご協力で用地が確保できれば、市でも積極的に設置していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

(総務部交通課)



【横断歩道橋の設置は用地を確保することがなかなか…】

学童の安全確保を みんなで

私は5年前から交通指導員を行なっています。当時から私たち指導員の夢として、5年後には交通マナーはどのくらい良くなるか、通学路の整備がどのくらい行なわれるかということでした。

しかし、この5年間に交通マナーはたかまつたが(ただし学童だけ)、通学路は一向に整備されておられません。自動車は年ごとにふえており、このままの状況では子どもの安全を確保していくことがますます難しくなっています。

そこで一つ実現していただきたいことがあります。それは、各校区ごとに学校を中心にPTA、交通指導員などが通学路、安全施設、モデル児童公園の設置などについて知恵をだしあい、思いきつたプランをたてることです。

とりあえず現在の交通地獄を解消するためには、時差登下校が一つの方法だと思います。通学路と通勤路と同じ、時間も同じころになつていきますので、時間をづらせて児童の安全をはかるとともに通学時間帯から車両を締め出すなどを行なつたらと思います。(鈴木敏夫)

国勢調査結果④

農業就業者が大幅な減少を示す

就業人口は、第1次産業就業者が年ごとに少なくなっています。これにともない第2次産業、第3次産業の就業者が増加しているのが別表でよくわかると思います。

第1次産業の就業者人口は、昭和40年の10,717人に比べ17%少ない8,891人になりました。なかでも農業就業者は大幅に減少し、男子の就業者から女子就業者に労働力が移っています。男子は兼業が多くなっています。

第2次産業は、40年の37,660人に比べ23.7%増加し46,587人になりました

なかでも製造業は大きく伸び、40,152人と全産業の44.9%を占めています。

第3次産業は、第2次産業以上の増加率を示し、40年の26,958人に比べ25.8%も増加し33,912人になりました。

なお、就業人口総数は89,390人です

が、産業分類別に多いものからみるとつとも多いのが先に述べた製造業です。次は卸小売業の12,582人(14.1%)、サービス業の10,880人(12.2%)、農業の8,654人(9.7%)の順となつていきます。

産業別の就業人口構成

